

# 近代中小企業

Modern Entrepreneur

儲かる技術がわかる教材

特集企画

## 史上最大の危機対策



新連載

### ITを活用した営業の仕組み作り

▶付録／自社でつくる災害対応マニュアル

## CONTENTS

2011

May

5

### Interview – 4

株式会社

フェアコンセプトインターナショナル

代表取締役社長

山本 純一



編集部より

### 東海地震発生時の「震度」と「津波」

<http://www.jma.go.jp>（気象庁「東海地震について」より抜粋）

東海地震が発生したときの震度分布や津波の高さの分布は、以下のようにになると想定されています。

東海地震（マグニチュード8程度）が発生すると、静岡県、山梨県の一部では震度7となるところがあります。また、静岡県全域及び山梨県、愛知県、神奈川県、長野県、岐阜県の一部を含む広い地域では震度6強か6弱、それに隣接する周辺の地域では震度5強程度になると予想されます。東京都や三重県は、震度5強以下と想定されています。

また、太平洋沿岸の広い地域に津波の来襲が予想されます。特に、伊豆半島南部、駿河湾から遠州灘、熊野灘沿岸及び伊豆諸島の一部では5mから10m、ところによってはそれ以上の大津波となるおそれがあります。相模湾と房総半島では、ところにより3m以上と予想されます。

東海地震が発生した場合、地震の揺れや津波等により、建物全壊約26万棟、死者数約9,200人という甚大な被害が予想されるため、日頃からの十分な備えが必要です。

とありますのが…。東日本大震災では、あらゆる想定が覆されてしまいました。自然災害における「リスクマネジメント」。読者の皆様の会社は、本当に丈夫ですか？

## 特集企画

### 史上最大の危機対策

被災地や被災者に対して「個人」や「法人」として何が出来るのかを考える！

8

株式会社山口總研

代表取締役／山口 泰信

「リーダーシップのあり方」

それこそが企業再建の鍵

12

西田社会保険労務士事務所

代表／西田 善知

緊急対応法が従業員を

救い被害を食い止める!!

16

日新弘道館

代表取締役／伊東 毎子

価値観を逆転させる

「パラダイムシフト」

20

株式会社パートナーズプロジェクト

代表取締役／高野 裕

企業経営における

リスクマネジメントの要点考察

24

株式会社マーキュリーコンサルティング

代表取締役／島倉 大輔

## 読み切り

### 28 間違えがちな「従業員満足」

嶋田 信子

## 連載

### 32 第1回／ITを活用した営業の仕組み作り

鬼頭 秀彰・吉田 裕美子

### 36 第3回／若手社員に教える!! お客様との会話術

菊原 智明

### 40 第3回／企業ドクターの赤字企業診療日誌

堀内 智彦

### 44 第5回／もしドラを日常の経営現場にこう活かす!

山下 淳一郎

### 48 第15回／財テクなんでもColumn

新美 昌也

### 50 Information

月間ビジネス書ランキング

ビジネス図書館「BizRepo」今後の追加予定

# 被災地や被災者に対して 「個人」や「法人」として 何が出来るのかを考える！

「被災地に対して何か支援活動をしたい！」個人に限らず法人としても、この思いは変わらないはずです。しかし現実問題として、即行動とはなかなかいきません。何をしていいのか… 行ったら迷惑になるかも…。そこで本稿においては、筆者の阪神淡路大震災で被災した経験や、中越大震災などにおけるボランティア経験。また現在、防災士として地域コンサルタントや、企業へ災害対策などの指導を行なっている立場からの助言を述べたいと思います。

株式会社山口総研  
代表取締役  
日本災害情報学会正会員  
日本防災士会正会員

山口 泰信

URL <http://www.bcpjapan.jp>  
E-mail info@bcpjapan.jp

## ボランティアについて

### 行けば役に立つ

「今行くと迷惑なので、勝手に行つてはいけない」「ボランティア団体に所属していないから行けない」とお考えの方も多いかと思います。

経験がなくても避難所に行けば、必ず役に立ちます（私も4／10より仙台へ現地入りする予定です）。信じられないほどの仕事量が山積になっています。避難者にとっても、ボランティアの活躍は、勇気を奮い立たせてくれる重要な役割を成しているのです。

お気持ちがありましたら「全社

協被災地支援・災害ボランティア情報」や「被災地災害ボランティーセンターの設置状況」(Yahooのトップページから、災害支援関連のリンクから検索してみてください)。様々なボランティア組織が現地への送り込みを組織的に行なっています。その団体に登録し、団体の指示通りに活動しましょう。

これから長期化する中で、各団体は、被災地区の状態に合わせて支援の内容を変えていくので、

支援を受ける側は、ボランティア管理の手間がなくスムーズに進みます。一度自ら参加して被災地への足がかりをつくり、二度目に支援する時は独自に特定の相手を支援することも可能です。

まず行く、そこには、被災地の空気、におい、人々の熱い思い、悲しみ、TVでは伝わらない真実が待っており、「生きるために生きている」こと「その土地で生きること」「再生していく力」を感じることが出来ます。避難所を運営コ一ディネートするには、ボランティアの人たちがいつまでいてくれるのかがとても重要な問題です。

被災地が落ち着きを取り戻したことには、ボランティアの人数が激減することがあります。私のいた神戸の避難所でも困ったことを覚えていました。物資の配給のお手伝いが足りないので。避難所として一番うれしいパターンは、県外や市外から1週間毎に数名ずつ継続的に避難所支援してくれるボランティアが求められています。

ボランティア活動は指揮命令系統がはつきりしない中で、活動す

ることになるので、二度手間にならないこともあります。効率的な仕組みで動いてない場合があります。それでも、何もなかつた時から、ある程度作業が出来るところまでやつときたのです。それを途中から来た人は、「なぜ、パソコンを使わないのか?」などと言つたりしますが、最初は電気もなかつたところからのスタートだったことを理解してあげましょう。

**被災地に再び行きたくなる**

一度目は、「被災地に行く!」から、二度目は、「〇〇さん達に会いに行く」となるので、一度目の現地入り支援を「勇気の支援」とすると、二度目の現地入り支援は、「心の支援」とでもいえるでしょう。実際に、阪神淡路大震災の時も何度も何度も同じ人が来てくれました。

**ボランティアの対場による区分**

①被災ボランティア：被災ボランティア被災者の中から立ち上がった地元出身のボランティア

②近隣ボランティア：被災近隣地区から来たボランティア（隣の

ことになるので、二度手間にならぬことがあります。それでも、何もなかつた時から、ある程度作業が出来るところまでやつときたのです。それを途中から来た人は、「なぜ、パソコンを使わないのか?」などと言つたりしますが、最初は電気もなかつたところからのスタートだったことを理解してあげましょう。

市町村）

③県外ボランティア：まつたく被災していない地区から来たボランティアなど

#### ボランティアの支援内容

- ・食料、炊き出し、支援品などを持つていく
- ・現地の避難所運営を手伝う
- ・被災者の家具の運び出し、泥の掃き出しなど復旧活動を手伝う
- ・安否確認代行
- ・トラック持参で運搬・移動の手伝い（ガソリンは支給される）
- ・バイクによる避難所間や自治体間の伝令
- ・心のケア、子供たちの遊び相手、介護、理容、歯科、マッサージ、演劇、コンサート、シャワーや移動風呂などの特殊活動
- ・企業として、重機や配電インフラ整備など
- ・保険や医療の専門家

#### ボランティア期間による区分

- ボランティア期間による自分の食料品の考え方（4／1時点）
- ・短期型（数時間～3泊程度）：自分分の水、食料はすべて持つてい

くこと（パンやおにぎり、レトルトのおかゆなど）

・中期型（4泊～2週間）：5日分

は持つていくが、後は、被災者

の人と同じように食事を摂る事

になります。現在、食事や水は自ら持参することを求めている

ところが多い状況です

・滞在型：いざという時のための食料を持っていく。配給物資から自分の分も頂く

・通勤型：被災から復興した自宅から毎日避難所に通勤して運営を手伝う。昼は弁当を持ってきて夜は自宅に帰って食べる

すべての型において、炊き出しなどは、余つたらいただくようにしましよう（先頭に並ぶのはタブレート）。また、参加するボランティア団体などの指示に従つて夜は自宅に帰つて食べる

被災現場へは、立ち入り禁止で入れない場合もあります。絶対に警察や消防、自衛隊の指示に従つてください。

被災現場へは、立ち入り禁止で入れない場合もあります。絶対に警察や消防、自衛隊の指示に従つてください。避難所から出る時は、必ず誰かに連絡してから出ること。無断でいなくなると非常に心配です。

災害復旧活動内容は進展状況により違いがあり、自分のやりたいことと、求められることが違うかもしれません。それをきちんと理解してください。

#### 避難所での心得

仮説テントを張り数ヶ月留まり、その避難所に順次送り込むパターン・企業として、関連企業を支援するパターン

・企業として、関連企業を支援するパターン

避難所には様々なボランティアがいますが、当然、長くいる者が避難所のことを理解し、指示する立場になることがあります。まずは、先にいる人の指示に従いましょう。避難所では仕事がない時間もあります、そんな時は、被災された方の自宅を片付けるお手伝いなどがあり、そばについているだけでも喜ばれます。

避難所から出る時は、必ず誰かに連絡してから出ること。無断でいなくなると非常に心配です。

#### 現地入りする方法

- ・個人で直接行くパターン
- ・団体に所属して団体が一時的に行くパターン（大学サークルなど）

災害復旧活動内容は進展状況により違いがあり、自分のやりたいことと、求められることが違うかもしれません。それをきちんと理解してください。

被災地への移動は、各自対応でお願いするところや、送迎バスが出るところなど様々です。ホームページで各地の状況は表示されているので、まずは、検索エンジンのトップページから、災害支援関連の情報を取得し、場所や団体を決めることが必須となります。

#### 個人的な持ち物

名札を用意しましょう。首から紐でさげるタイプは作業の邪魔になるので、安全ピンで胸につけるタイプが有効。名札は「ひらがな」か「カタカナ」で書き、どこから来たかを書いておくと会話が弾みます（例／兵庫県西宮市 やまぐち）。オレンジ色のスカーフなどを首に巻き、専門家ではなくボランティアを表明する（チヨッキやヘルメットで完全装備をすると、専門家と間違えられやすい）。リーダーや長期間滞在する人は、色違の腕章をするをお勧めします。

自分で用の非常用食料を持つてい（火を使わないものに限定）。避難所でおそそ分けをもらえる時は、遠慮せずにもらいましょう（結局

余ったものは、捨てるので）。炊き出しがある場合、被災者の後に並ぶように心がけます。

#### 現場でのカメラ撮影

被災者は、プロフェッショナルな大型カメラには不快感を抱きます（カメラマンとして行くのなら、それなりの覚悟が必要です）。ボランティアを受け入れる側としたら、

「こいつ何しにきたんだ」と思います。携帯電話のカメラで、申し訳なさそうに撮ることは、自分の記録としても避難されている方との間を親しくする意味でも大丈夫かと思いますが、いずれにしても避難されている方は、カメラも持っていないのでカメラの取り扱いには十分注意が必要です。

#### 喧嘩も起ります

①長期間いるボランティアと、後から来た短期のボランティアとの間（運営方法に対応して）  
②ボランティアと被災者（物資の配給の仕方など）  
③被災者対被災者（土地の境界線など）

#### ④夫婦喧嘩

私は様々な喧嘩の仲裁に入りましたが、この中で、③と④は仕方ありませんが、①と②については、

不要な喧嘩です。自分が何のために行つたのか、支援の押し付けは無駄な喧嘩を生みます。

怒っている被災者、落ち込んでいる被災者、寝たきりの被災者、

たくましく商売を始める人、今まで様々な人に出会いましたが、生きるエネルギーのほとばしりが怒ります。生きようとするから、目の前の不条理に腹が立つのです。

それは、あきらめていない証拠であります。また、立ち上がりれない人たちもいます。震災孤児や障害者など弱者への支援の手も必要です。手と手のふれあいと、金銭面の両方の支援が必要です。

#### 企業から被災者へ

某旅行代理店では、被災地へに安価な海外長期滞在プランを作成しています。

某携帯電話会社では、被災地へ数万台の携帯電話を無償支援、震災孤児の18歳までの通信料を無料とするなど、得意分野のサービスで被災者支援を行なっています。

中小企業でも様々な支援が可能です。例えば「がんばろう日本！ 純Tシャツ」などを販売、売上の何割かを募金に回すとか、飲食店では、ランチメニューに千円の義援金ランチをつくり、その内の2

00円を募金に回すなど、サービスを伴う義援金活動の方が継続できるでしょう。被災者への復興資金と経済の両立が必要です。

#### ボランティア以外の支援

##### 企業から被災企業へ

同業種の被災者従業員を雇い入れる。住居は市町村などが用意し、仕事を受け入れ企業が用意するなどの援助ができるかと思います。

また、業界だけの特殊な設備やツールなど、それらをドンと支援するのが一番喜ばれるでしょう。インフラ整備と業務再開が一番の復興です。企業は何としても、事業を継続させなければなりません。「人を雇用し給料を払う」これが一番なのです。

## 義援金を送ろう

義援金について、日本赤十字に送るのもいいですが、現地入りしているボランティアチームを応援するのもひとつの手です。友人や知人が現地入りする際には、金一封を持たせてあげるとさらに支援地に入ると、次にまた行きたくなるので、支援に行く人の旅費に使つてもらうのが一番です。

## 献血は何度もしよう

<http://www.jrc.or.jp/donation/index.html>

いつもは不足気味の献血ですが、現在は、「何かしたい!」という支援の力で献血する人が増え、3月20日時点で血液は足りているとのことです。

しかしながら、この大規模な災害に対しては、継続的に献血する必要があります。1度献血すると成分献血で2ヶ月後、全血献血で3ヶ月後と、次回献血まで時間を空ける必要があります。献血カードには、次回の献血可能日が記載された献血カードをもらいます。ぜひお願いします。

## 支援物資を送ろう

各市町村で緊急支援物資受付をしている

兵庫県西宮市の例

[http://www.nishi.or.jp/homepage/tohoku\\_shinsai/shien\\_0006.html](http://www.nishi.or.jp/homepage/tohoku_shinsai/shien_0006.html)

受付窓口での物資受付・仕分け作業のボランティアも同時募集しています。私が実際に手伝った西宮市の場合、毎日40名ほどのボラ

ンティアが市内や大阪から集まつて、車両整備・物資受付・搬送・仕分け・梱包と、段取りよく活動しました。

物資については出来るだけ役所のホームページで紹介してあるものを持って行きましょう。該当品目と、ついでに自分に不要のものを持つてくる人がいますが、役所では被災地に届けるタイミングも考えて、物資を限定しています。

テレビニュースで歯ブラシがなくて困っているからといって、自宅でホテルの歯ブラシを長年ためていたものを持ってきてもらつても困ります。善意の気持ちなのだから、受け取る側のボランティアも心打たれて受け取りますが、結

局ゴミになってしまい廃棄費用が発生してしまいます。使用済みの肌着などは論外です。今の時代、洗濯した肌着を友人からもらつても嬉しくありません。

各自治体で支援物資の希望リストも違い、期間によつても変わります。受付場所も役所で受け取ることは限らないので必ず事前に確認してください。

トも違い、期間によつても変わります。受付場所も役所で受け取ることは限らないので必ず事前に確認してください。

## 自動車を送ろう

地方の市町村は、車がなければ何も出来ません。近々、車の買い替えを考えている方は、下取りしてもらうのではなく、被災地に支援品として送るのはどうでしょうか? (名義変更などの法的に必要な処理を必要とします)。

日本は地震大国です。過去には毎年巨大地震が起こった歴史があります。

## 心の準備を怠るな

日本は地震大国です。過去には毎年巨大地震が起こった歴史があります。

死者・不明..1千083人  
死者・不明..1千223人  
死者・不明..2千306人

死者・不明..1千330人  
死者・不明..3千769人

死者・不明..1948年 福井地震  
死者・不明..1945年 三河地震

死者・不明..1946年 南海地震

死者・不明..1944年 東南海地震

今後、あなたが被災者になるかもしれないのです。個人・法人としても手です。実際には、魚群探知機やGPSシステムなど様々なツールが必要ではありますが、船乗り

が陸に上がるほどむなしいものはないのです。私の父も中学を卒業してから60歳までの間、ずっと船に乗っていました。海人は海人、船に乗れば、立ち上がる勇気も沸いてくるのではないでしょか。